

～新春スペシャル～

としよかんNEWS 第9号



2006年1月17日
湘北短期大学図書館

本の山の中で本の虫になろう

● 図書館のきめ細かいサービスは湘北の誇り

山田敏之 学長

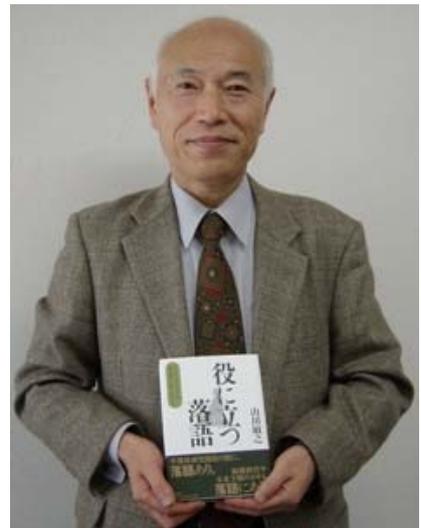
小さいころから本の虫だった私にとって、図書館は勉学の場というより憩いの場であったような気がする。書架の前に立って読みたい本を探るとき、閲覧室の机に向かってそっと本を開くとき、いつもかすかな心のときめきを覚える。そこには未知の世界への扉がある。ときによっては昔訪ねた古い景色を覗き見る鍵穴かもしれない。心静かに本を読むということは、人間に許された最高の悦楽なのではないかと思ったりもする。

本といえば、これまでもっぱら読み手の側にあったのだが、この歳になってはじめて本を書く側に身を置いてみた。これまであちこちに書き散らしてきた拙文をまとめて、多少の肉付けを施し、昨年11月末に出版したのである。¹⁾ そこで身をもって実感したことは、当然のことながら、一冊の本を作るのは著者だけではないということである。

内容や文字の誤りを正す人、レイアウトや装丁に技をふるう人、題名や帯の文句を考える人等々、それぞれが本づくりのプロとして見えないところで力を尽くしている。本を出してみても、本への愛着がまた一段と増したように感じる。

いま日本では年間7万冊以上の新刊書が出版されるという。²⁾ 一日平均200冊にもものぼるありとあらゆる本が次々に生み出され、売れない本はどんどん葬られていく。いろいろなものがそうであるように、知性や感性の産物である本でさえ大量生産、大量消費の弊を免れ得ないのが現代である。あり余る本の山の中で、一冊々々の本の価値が目減りしてしまったような気はしないだろうか。でもまた視点を変えれば、そのお蔭で私のような素人まで、いっばしの著者気取りができるようになったのだから、むしろ有難いことというべきかもしれない。

それほどまでに溢れかえっている大量の書籍の中で、自分が本当に読みたい本を見つけることは容易ではない。インターネット上の検索も有用だが、何といても本に詳しい人のアドバイスほど役に立つものはないだろう。その点湘北の図書館はたいへんに恵まれている。なぜならとても有能な司書さんたちがいて、懇切に読み手を助けてくれるからである。自著の中で私がある江戸時代の本をまだ読んでいないと書いたら、さっそく厚木市図書館にあることを突き止めて取り寄せていただいた。痒いところに手が届くという言葉どおりのサービスではないか。そんな環境にいる湘北の学生たちはとても幸せである。図書館に入り浸り、本の虫になる若者が一人でも増えてくれればと願っている。



1) 山田敏之著『役に立つ落語—ソニー・エンジニアが名人芸から学んだこと』(新潮社, 2005.11) 779.1/ヤ

2) 出版ニュース社編『出版年鑑 平成17年版』(出版ニュース社, 2005.6)

わたしが選んだ 2005年のベストブック！

本好きの6人に
聞いてみました！

📖 戦国時代の終焉

「北条の夢」と秀吉の天下統一

斎藤慎一著 中央公論新社

チ/1809 (C07923) 中公新書



戦国時代、関東でもっとも勢力があったのは小田原の北条氏でした。織田信長と友好関係を保ちながら、「関東統一」を目指した北条氏。もしも、北条氏が「関東統一」を果たしていたら、ひょっとしたら小田原が日本の首都になっていた、かどうかはともかく、関東平野を縦横無尽に駆けめぐった戦国大名北条氏の実像を知ることができます。約850通もの戦国武将の書状を解読し、北条氏の行動を具体的にたどってみせる手法は圧巻です。 **30代 男性 (教員)**

📖 美人の日本語

山下景子 幻冬舎

810.4/ヤ (100739)



昨年から日本語ブームでさまざまな日本語についての本が出版されています。その中からどうしてこの本を手にとったのかというと、タイトルに惹かれたのと美人の日本語って例えばどんな言葉なのだろう？からでした。本には美しい言葉とその解説が365日に分けて紹介してあります。自分の誕生日の日にどんな言葉が紹介してあるかもこの本を読む楽しみでもあります。この本を読み美人の日本語を使って内側からキレイになりませんか。

10代 女性 (学生)

📖 大停電の夜に

源孝志著 講談社

913.6/ミ (102195)



この本は映画「大停電の夜に」の原作小説です。東京が一年で一番光輝くクリスマスイヴの夜、もしも街からすべての灯りが消えてしまったら…。光がなくなって初めて気付く星の光、電気がなくなって初めて気付く炎の優しさ、やる事がなくなって初めて気付く心の闇。日常的にはなかなか体験できない、ある意味、不幸せな私たちに仮想体験をさせてくれます。読み終わった後は温かさと同時に少しだけ淋しさも…。読み終わった後、あなたが想う人は誰ですか？

20代 女性 (学生)

📖 メディアリテラシーの道具箱

テレビを見る・つくる・読む

東京大学メルプロジェクト[ほか]編

東京大学出版 699/ト (102473)



メディアをテーマにしたプロジェクトに関わった方々が書かれたメディアリテラシーについての最適な教科書です。基本的なことからについて分かりやすく説明されているだけでなく、授業などのさまざまな実践例から具体的なことからについても理解することができます。名刺もひとつのメディアとしてとらえる例など興味深いことから多く紹介されています。テレビや映像を中心に扱っていながらも幅広くメディアの基本を学べる一冊です。

40代 男性 (教員)

📖 なぎさの媚薬2

重松清著 小学館

913.6/シ/2 (102475)



青春。その甘酸っぱい響き。誰もが、思い出したく、思い出したくない過去を抱いて日々暮らしている。中年に差し掛かり、若かった頃と現実を行ったり来たりする男性の複雑な心情を、青春とは切っても切り離せない欲望を交え、甘く切ない物語にまとめている。

家族、青春、こども…など、色々な切り口で絶大な人気を誇る著者の一風変わった作品。特に男性諸氏にお薦め。

30代 男性 (職員)

📖 勉強ができなくても恥ずかしくない

① どうしよう…の巻

橋本治著 筑摩書房

プ/6 (C08014) ちくまプリマー新書



ぼくの名前はケンタ。小学生。家は菓子屋なんだ。「学校は勉強するところだよ」と教わった。でも、勉強だけしていればいいのか？ほかにもっとしなければならぬことがいっぱいあるんじゃないのか？全3部作のこのシリーズには、ぼくが小学校から高校まで、学校で感じたこと、考えたことがいっぱい詰まっている。みんなも感じて、考えてほしい。

40代 女性 (職員)